

# 一心寺かわら版

第五十七号 令和五年一月発行

持名山一心寺 検索

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
旧年中は護持運営にご協力いただき誠に有難うございました。

コロナ禍が続く中、ロシアとウクライナの戦争が起こり、物価の高騰。世の中に不安が広がっているのではないのでしょうか。このような時こそ、しっかりとした考え方、拠り所が大切になってくるのではないかと思います。ご一緒に仏さまの声に耳を傾けましょう。本年もよろしくお願ひ申し上げます。  
南無阿弥陀仏

## 誕生を祝うー親鸞聖人ご誕生八五〇年に向けて

令和五年は、親鸞聖人が誕生されてから八五〇年の節目に当たります。本山興正寺では四月十八〜二十日に慶讃法要が勤められます。

親鸞聖人が誕生されたのは承安三年（一一七三年）四月一日（グレゴリオ暦換算五月二十一日）と伝わっています。浄土真宗門徒は、親鸞聖人がお生まれになったからこそ、お念仏が私のもとに伝わってきたのだと喜び、その誕生をお祝いします。



現在では、個人の誕生日を祝うことは一般的になっていますが、もともと日本には誕生日を祝う習慣がありませんでした。昔は「数え年」で年齢を数えることが普通で、お正月が来るとみんな一斉に年を取っていたためです。日本で個人の誕生日が祝われるようになったのは、昭和二十四年に「年齢となえ方に関する法律」が制定されて以降、満年齢での数え方が普及し始めてからだと言われています。

海外ではどうでしょうか。イエス・キリストの誕生日「クリスマス」などが代表的ですが、生誕を祝うことは宗教的な意味合いが強いものだったようです。

いつから個人の誕生日を祝うようになったのか、ということについて諸説あります。十五世紀のドイツでは、「キンダーフェスト」と呼ばれる子どもの誕生日会が行われていました。当時のドイツでは、子どもの誕生日に悪霊がやってくると考えられていたため、バースデーケーキの上に一日中ろうそくを灯すことで神に祈りを捧げ、子どもを守っていたそうです。そして、一日が無事におわると、夕食後に皆でそのケーキを食べたといわれています。

ただ、子どもの誕生日会が行われていたのは、一部の裕福な人々の間でのこと。庶民には誕生日の風習は広まっていなかったようです。

誕生日にはケーキが付きものですが、バースデーケーキの起源は、古代ギリシャの時代にまで遡るそうです。古代ギリシャ人は、月の女神であるアルテミスの誕生を祝うため、月の形を模した丸いハニーケーキを焼いて、アルテミスへのお供え物としました。このとき、ケーキにさしたろうそくに火を灯し、月の光を表したそうです。当時の人々は、ローソクの明るい光が、天上にいる神に自分たちの願いを届けてくれると考えていたのでしょうか。



さて、日本には、伝統的な風習として「七五三」がありますが、始まりは室町時代と言われています。当時は、現代ほど医学が発達しておらず、栄養も乏しかったため、乳幼児のうち亡くなってしまいう子どもが少なくありませんでした。そこで、七五三の歳まで無事に育ったことへの感謝を込めて、また、幼い子どもから少年少女へと成長するひとつの節目を祝う意味を込めて、神さまに祈りを捧げるようになったそうです。その思いは千歳飴にも表れています。

七五三は、日本の伝統的な誕生日の風習だといえるかもしれません。



このように見てくると、誕生日を祝うということは、神聖なもの、宗教的なものであると感じられてきます。毎年誕生を祝うということは、この一年の無事を感謝すること、そしてこれから先の一年の無事を願うこと。それは、私の人生にとって大切な存在、私のことを見守ってくださいている神仏に祈りを捧げる、その誕生を祝うという思いにも繋がってきます。

お釈迦さまの誕生日である「花まつり」は四月八日、親鸞聖人の誕生日「降誕会」は四月一日(五月二十一日)にお勤めします。誕生を祝うということの意義を心に入れて、親鸞聖人の御誕生八五〇年という節目を迎えたいと思います。

#### ★お寺の掲示板法話

「あなたの寿命を長くすることはできません。その間に良く生きられるようにします」

医師・細井順さんのことばです。外科医十八年、ホスピス医として二十五年以上の経験を経て「その結論、人間誰しも充実した幸福な最期を迎える力を持っていること。ホスピスでは全人的(体、心、魂)ケアを通してお膳立てをしていきます。人間は皆同じです。一人では生きられませんが、終われません。共に笑い、共に泣いて苦しみをかち合います」とおっしゃっておられます。





医療とは「健康の維持や回復、増進を目的とした診断と治療」のこと。しかし、いくら治療によって病気を治せたからといって、不老長寿にすることはできません。

浄土真宗の七祖の一人に数えられる曇鸞大師（どんらんだいし）は、中国の人びとに仏教の教えを正しく伝えるべく『大集経』（だいじつきよ）六十巻の註釈に取り組みました。しかし、病にかかり仕事を中断せざるを得なくなります。これを完成させるには、健康な心身と長寿を得なければならぬと不老長寿の術を学びます。

しかし、菩提流支三蔵という僧侶に出会い、その愚かさを指摘され、阿彌陀仏と無量寿（かぎりないのち）について教えられます。そして、不老長寿は愚かな欲望に過ぎないと気づかされ、阿彌陀仏の浄土に往生する教えに帰依されました。

百年の長寿を得たとしても、人はやがては死を迎えなければなりません。人は、不可思議な縁によってこの世に生を受け、さまざまな縁に恵まれて生存しています。そして、その縁が尽きれば、悲しいことではあっても、この世から去らなければなりません。

平成二十九年に百五歳で亡くなられた医師・日野原重明氏は、「老化によるからだの衰えや、不幸にして治る見込みのない病に見舞われても、私たちは「欠陥があるにもかかわらず健康やかである」という生き方を求めていくべきだと思います」と語られています。



さて、さとりを開かれたお釈迦さまはさまざまな異名で呼ばれました。その中の一つが「医王」、医療の王様というものです。「応病与薬」、その方の病に応じて薬を与えるように教えを説かれたことによります。

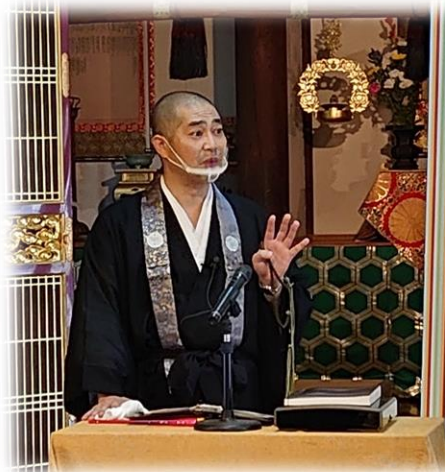
病は人それぞれです。癌、脳梗塞、新型コロナウイルス：それぞれ異なった治療、手術、薬が必要です。煩惱の病も人それぞれ。特に人を苦しめる三毒といわれる煩惱。貪欲、底なしの欲望。瞋恚、怒りなど感情の抑制が効かない。愚痴、無知で愚か。これらが具体的に表れるのが、金銭、名誉、愛、不老長寿への渴望であり、喧嘩、戦争です。お釈迦さまは、それぞれに応じて対処する方法を説かれます。

心の病は医王・お釈迦様に訪ねてみてはいかがでしょうか。心が落ち着くかもしれません。

### 秋季永代経報告

今回は久しぶりにご講師をお招きしての永代経法要。千葉憲文師（まんのう町・善性寺）より来年の慶讃法要に向けてのお話。スローガンは「今こそお念仏一つなごうふれあいの輪」。合わせて総代世話人会も開催、今後の寺院運営についてご相談しました。

既報の通り、四月十九日に西讃教区団体参拝に参加しますが、まだ席に空きがあるとのこと。参拝希望の方はお声掛けください。

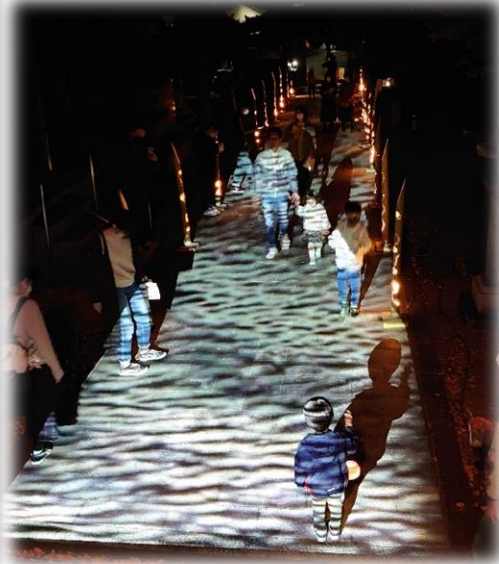


今こそお念仏一つなごうふ

よるしるべ&よるしらべ

十月二十八〜三十日、十一月三〜五日の六日間、観音寺夜のまち歩き「よるしるべ」が開催されました。今回は瀬戸内国際芸術祭公式プログラムということもあり、地元の方はもとより、日本各地、外国からの観光客もあり、五千人もの来場者で賑わいました。

参道と银杏に観音寺の町から発想を得た映像作品が投影され、陶器と竹の灯りも彩りを添えしました。また、多くの方がライトアップされた本堂に入って手を合わせてくださり、有難いことでした。



そして、十月三十日には声明雅楽コンサート「よるしらべ」。十九名の僧侶が集い、聖徳太子千四百年忌として勤められました。

一心寺の属する真宗興正派の本山は京都興正寺。興正寺という寺号は廟崛偈(びょうくつげ)といわれる聖徳太子の偈文に由来すると伝わっています。

「大慈大悲本誓願 愍念衆生如一子 是故方便從西方 誕生片州興正

法」(大いなる慈悲が私の誓願であり、衆生を独り子のようにあわれみ、おもっている。そのため方便として西方よりこの片州の国に生まれ、正法を興す。)

聖徳太子は仏教に深く帰依され、「和を以て貴しと為し」、「篤く三宝を敬へ。三宝は仏法僧なり」と説かれたことから、和国の教主、救世観世音菩薩の化身として仰がれてきました。親鸞聖人の太子への崇敬の念は深く、真宗興正派もそれを受け継いでいます。

今回、その聖徳太子を讃える『太子礼文』、『大悲段』、『聖徳太子奉賛』などをお勤めしました。普段とは違った夜の荘厳の中で響き渡る声明雅楽によって仏さまの心が伝わったならば幸いです。

本山興正寺報恩講法中代表登壇

本山興正寺は、平成三十年の大阪北部地震で御影堂が損壊。ようやく修理が完成し、四年ぶりに全国から僧侶・門徒が集ったの報恩講が勤まりました。

十一月二十七日午前の法座で、光栄なことに初めて本山で登壇(導師)させていただきました。法要の模様を一心寺YouTubeチャンネルで公開しています。ご覧ください。

(持名山一心寺で検索、もしくは下記QRより↓)

